
「僕の人生論」

巡芳もとめ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「僕の人生論」

【Nコード】

N9671Z

【作者名】

巡芳もとめ

【あらすじ】

僕は僕のこれまでの人生について思いを巡らせる。

(前書き)

僕は僕のこれまでの人生について思いを巡らせる。

窓から夕暮れをぼんやりと眺めている僕。

遠くに聞こえる電車の音。

道行く人々。空を流れる鳥の群れ。

ここまでの人生あつという間だったな、と思う。

あの頃描いていた僕の未来は、もっとリアルで、もっとその日その日を力強く生きていて、先のことなどでいちいち不安になんかなる暇もないくらい、人生に情熱を注いでいた、はずだった。

僕は僕のなりたい者になり、内面からの自由を獲得し、どこへでも流れて行けていた、はずだった。

そして僕はあらためて感じた。

僕という人間は、例え何億とおりあるあみだくじのような道を歩いても、何億とおりもの選択をしたとしても、結局、結論は一つ、行き着く場所は一つなのだ。

道は無数にあつても、その道すべての終着地点はひとつ。すべての道がそのたつたひとつの地点に一齐に向かっているのだ。思考の収束。選択権の放棄。

これまでの僕は、未来への恐れがあるようで、心のどこかでは、きつと何者かにはなれるはずだろうと安易に考えていた部分もある。人はどこへ流れてゆくのだろう。

僕はここからどこまで行けるのだろう

「ほら、ごはんよ！早くしなさい！」

ふいに僕を呼ぶ声。僕は溜め息を深くついて、窓を閉める。

「明日の用意はしたの？ちゃんと時間割見た？ランドセルに教

科書つめたの？ もう幼稚園生じゃないんだから、小学生になったんだから、しっかりしないと！」

僕はこれからの人生の過酷さを思い、更なる苦悩に悩む。

そして、また窓の外に目をやり、ぼんやりと人生というものについて考えを巡らせてみるのだ。

「こら！ 何回言ったらわかるの？ 早くしなさいっての！！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9671z/>

「僕の人生論」

2011年12月30日02時49分発行